

## 野田川地域認定こども園（仮称）整備に係る住民説明会 での意見等内容一覧について

令和6年3月  
与謝野町

一人でも多くの方々と共有することで、野田川地域認定こども園（仮称）整備についての御理解をいただきたいので、令和6年に開催しました住民説明会における意見等内容一覧を作成しました。

### 石川区住民説明会意見内容等（1/10実施 参加者28名）

（意見）

- ・野田川地区における園児の人数は。

（回答）

- ・平成28年度以降の野田川地域の公立園の園児数は、平成28年度 267名、平成29年度 278名、平成30年度 267名、平成31年度 281名、令和2年 275名、令和3年度 272名、令和4年度 266名、令和5年度 249名、令和6年4月入所見込は、204名となっています。

（意見）

- ・大規模園が必要なのかということが、第3者委員会で議論されている。
- ・3園舎を長寿命化した場合どうなるのか。
- ・目指す施設機能はどのようなものか。
- ・町長の公約だから進めるのか。子どもたちや父母の立場にたった議論になっているのか。
- ・図面に入り口や駐車場等が示されていない。

（回答）

- ・町子ども・子育て会議において、子どもたちの就学前の教育・保育のあり方や、野田川地域認定こども園の施設整備における規模のあり方について議論いただいております。こども園や保育所の先生からも意見を伺っています。

施設規模については、180人規模の施設を整備したとしても、子どもたちの遊びを通じた教育・保育活動は十分に支えていけると判断しております。

- ・現在の野田川地域のこども園・保育所の状況は、それぞれの施設が建築から40年以上が経過し、雨漏りや漏水等が発生し老朽化が進んでいることを把握しています。3園舎を残し教育・保育活動を行っていくという議論もありましたが、子ども・子育て会議や役場内での議論を通じ、当初の方針どおりに野田川地域の認定こども園は新築園舎を設置した上で、遊びを通じた子どもたちへの教育・保育活動を提供していくことがベストであるという結論に達しました。

こども園整備計画のハード面を中心に説明していますが、どのような就学前の教育・保育が必要なのかという点については、十分に皆さまには説明できていませんが、どのような保育を行っていくことがよいのかという議論を踏まえ

た上で、施設のあり方を議論してきた経過があり、順序も踏まえております。

公約で訴えたことを実現していく、目指していくことは住民の皆様との約束と捉えており、一刻も早く安心・安全な施設の中で先生方が考える保育を実践した上で、子どもたちの学び・遊びを通じた感性を育てていきたいと考えています。

(意見)

- ・現在の石川保育所を建設する際に、振動等によりタイルに亀裂が生じたり屋根瓦がずれたが一切保証がなかった。計画地は地盤が緩いが、家屋に亀裂等が入った場合、保証等はあるのか。また事前に周囲の家屋調査を行い、工事が起因する損傷等の場合は町が保証することになるのではないかと。

- ・現状、石川小学校入口方面からの保護者や先生等の車両がスピードをだして走行している。施設規模が大きくなると車両台数も増え、交通事情が心配である。他地区から通園される方はできるだけ国道からの出入りとし、地域内を通らない方法を検討してほしい。

(回答)

- ・工事により近隣家屋に影響があった場合の保証等については、どのような関与ができるのか庁内で議論し回答したいと考えています。

➡議論の結果、事前に家屋調査を行い、工事が起因する家屋の損傷等については、町で保証いたします。

- ・交通事情については、送迎の時間帯も含め、どのように車両の動きをつくるのかについて、様々な懸念があることは確かであり、専門家も交えて進入路を設計していきたいと考えております。

石川地区内の交通量が増えることによって、交通事故等が発生しないよう十分配慮することとしておりますが、具体的な対策等については、整備計画を取りまとめいく中で、検討することとしています。

(意見)

- ・用地交渉における現在の状況は、地権者は何名か。

- ・既に建物が建っている部分もあり、使いづらい用地だと思いが対処方法は考えているのか。

(回答)

- ・7筆で5名の地権者となっており、所有地に町が計画していくことについて同意を得ています。

- ・令和6年度に、不動産鑑定を行い用地価格を決定します。現状、地権者の土地に幼保連携型認定こども園を整備していきたいということを説明し、同意を得ていますが、詳しい交渉等については、令和6年度に行います。

土地の形状について、こども園・保育所長からは、「地域の中につくるこども園として、事業所があつたり地域の方の生活の場があることは、子どもたちの成長にも好ましい影響を与える」と伺っており、計画候補地において、整備していきたいと考えています。

(意見)

・計画地は農地であり、地盤が悪い。石川小学校グラウンドも暗渠が少なく水が溜まる現状がある。つばきこども園は高台にあるが、石川保育所周辺は土地の条件が悪い。園庭が水浸しになる可能性があるということであれば、暗渠を設置しないといけない。暗渠等の設置は経費的に増額になると思うが議論されているのか。江陽中のグラウンドは暗渠が確保されており水はけがよい。

・国道を利用する通勤者に加えて、山田、三河内、岩屋、市場地区から送迎車両が往来する。交通量調査等を実施し、どの進入路が適切なのかを考える必要がある。

現状、コメリから石川小学校に向かう道路は、道幅が広くなく、簡単に通園路を確保できるとは思えない。厳密に議論や調査をしていくのかが今後の課題である。

(回答)

・3園を比較検討する中で、技術的な側面からどのような課題があるのか、その課題にどのような解決策があるのかという点について、防災、交通事情等の面から検討を重ねています。これまでの検討の中で、交通事情、雨量に対する課題点等については認識しており、懸念事項に対して、一定クリアできるのではないかと考えています。ただし具体的な設計を行っていないため、現段階ではお示しできません。

(意見)

・大規模店舗の出店の際にも必ず交通量調査を行い、専門家による安全な進入路等が示されている。

(意見)

・概算費用では、地盤改良費をどのくらい見込んでいるのか。

(回答)

・造成費用は含んでいますが、金額については、現段階ではお示しできません。

(意見)

・以前、保育所前の道路が浸水したことがあった。農地が遊水池の役割を果たしており、農地を埋められると大変なことになる。土地の高さは、国道と同じ高さになるのか。

・保護者目線から言うと、事業所がたくさんあるところや、緊急車両が頻繁に通るところではなく、山の静かなところで保育してほしいと思う。

(回答)

・盛り土の高さ等、浸水対策については、現在協議中です。

・近年の大雨では、園舎及び園庭の浸水被害は確認しておりません。

(意見)

・用地の図面を見ると、2つの事業所があり窮屈な形状であると思う。

(意見)

・令和5年度の園児数は249名だが、イメージ図の園舎規模では小さいのではないか。

(回答)

・かえでこども園、つばきこども園も180名規模の子どもたちをお預かりできる施設として運営しています。野田川地域の認定こども園も180名規模と考えており、土地に合わせて設計の変更は行いますが、規模感は大きく変わるものでないと考えています。

(意見)

・100台分の駐車場を確保するには用地が少ないのでは。峰山こども園では十分な広さが確保されている。

・計画候補地で、子どもたちが自由に遊べる場所が確保できるのか。

(回答)

・取得予定地がすべて確保できれば、100台の駐車スペースは設置可能だと考えています。

・交通事情や大雨時の対応であったり、新園舎での具体的な子どもたちの生活においても意見をいただいております。これから具体的な設計に入って、提供できる資料が整い次第、説明会を開催し、情報共有いたします。

(意見)

・石川地域が浸水しないとは言い切れない。交通事情、水害対策について、十分検討いただきたい。以前、プラント出店計画時には、駐車場を調整池にするということを提案されていた。

(意見)

・事業認定はいつ頃取得されるのか。事業認定がなければ法的な問題が生じる。  
・町が用地取得した際には、地権者は租税特別措置法の控除対象となるのか。  
・税務署との事前協議だけで対象になる事業と、事業認定を受けなければならない事業がある。

(回答)

・租税特別措置法の該当事業であると思っています。事前協議、事業認定の必要等については確認します。

➡税務署との協議の結果、認定こども園の建設については、事前協議により、租税特別措置法の控除が受けられます。

(意見)

・今後のスケジュールは。決定してからの報告ではなく、意見により調整ができる機会をいただきたい。

・用地買収が決まり次第、説明会をお願いしたい。

(回答)

・これからの事業の具体的な流れについては、事業の進捗度合いを見ながら、報告事項だと認識したときには、適宜状況報告、意見を頂く機会を設けたいと

考えています。

(意見)

・用地買収により店舗が移転するということはあるのか。

(回答)

・現状考えていません。

(意見)

・こども園を整備するにあたっては、保育の中身が大事である。人間の一生の中で、飛躍的に発達する、わずか6年という期間の中で、子どもたちの成長にとって一番大事な保育は何なのかという中身を保証できる整備にしないとけない。

保育にとって何が一番大事なのかが、保護者や保育士に情報発信されていない。よりよい保育を実現していくために大規模な園を整備する計画となっているが、保護者や住民がわかる論議を行い情報発信してほしい。大規模園でよりよい保育に繋がるのかを具体的に教えてほしい。

・14億円を投資して、マイナスになるような整備では無駄になる。

(回答)

・野田川地域の3つのこども園・保育所については、供用開始から40年以上が経過する中で施設の老朽化が進んでいます。その中で日常的に注視しなければならぬと施設論として、安全な教育・保育環境を整えていくことが重要であり責務であると考えています。

新たな施設において、子どもたちに対する教育・保育がどのような理想の中で、実現に向けて尽力されていくのかという議論は重要だと認識しています。

また与謝野町は、すべての園において遊びを通じた教育・保育活動を展開していく中で、其々の園で目標を掲げ取り組んでいます。保育の中身は先生方に委ねつつも、安心・安全な環境を作っていくために、本事業を前に進めたいと思っています。

・子どもに対する関心を高めていく、教育・保育の内容を語っていくという意味でよい議論の場としていきたいと考えています。

保護者との対話の中でも、園にどのような保育を望まれるのか等を含め、議論していきたいと考えています。

(意見)

・適正な規模が15名から20名となっているが根拠は。

(回答)

・幼児期における育ちあう環境づくりを目指すためには、1クラス15名から20名のクラス編成が適正規模と考えています。

(意見)

・国の基準なのか。違う規模でもよいのか。

(回答)

・国の基準であれば、4・5歳児は保育士1人で園児30名まで保育すること

ができます。町の基準は1クラスを15名から20名とし、20名に1人の保育士を配置することとしています。また、必要に応じ、補助、加配保育士を配置しています。

(意見)

・4、5歳児であれば、一人一人の子どもたちに必要な保育を行うことは、4、5人でも大変である。家庭環境が異なる子どもたち20人に1人の保育士を配置してどれだけのことができるのか。20人の子どもを1人で保育することは難しいと考える。

8人程度が適正規模であり、20人は小学校の規模だと考える。15人から20人が適正規模と判断されているが、教育・保育を大切に論議されているのか。

(回答)

・幼児クラスの教育・保育環境を1クラス15人から20人程度とする適正規模へ再構築を図ることとしています。20名を超えた場合は、担任ではありませんがクラス補助という形で保育士を配置することとしています。

(意見)

・保育にとって一番大切なことは何か。

(回答)

・心身の安全確保が第一だと考えています。その中で遊びを通して子どもたちが感受性を高め、その環境を園が準備をしていくことだと考えています。

(意見)

・保育の中で一番大事なことは、子どもたちがゆとりと安心をもてるのかということだと思っている。子どもたちにとって一番重要な環境は保育士である。

保育士にゆとりと安心があるのかということは、家庭環境における保護者がゆとりと安心をもっているのかということと同じで、保育士にゆとりと安心がある保育所なのかどうかということが重要である。

大きな園になると、子どもたちも保育士もゆとりと安心が保証されるのかということを考えていかなければならない。かえでこども園、つばきこども園と大きな園ができているのであれば、その中で子どもたちも保育士もゆとりと安心が、これまでの園よりもよくなっているのかという検証が必要である。

## 下山田区住民説明会意見内容等（1/26 実施 参加者 14 名）

（意見）

・石川地区に新たなこども園を作るということが前提となっているが、山田の住民としては、山田保育所を新築・改築し、保育所を残してほしい。意見は受け入れてもらえるのか。

（回答）

・新たな認定こども園の整備候補地については、用地確保の見込、交通事情、災害等の観点から、現在、野田川地域で運営している山田保育所、石川保育所、のだがわこども園の3園舎の比較検討、協議の結果、現在の石川保育所を候補地とすることを決断しました。

今後も山田保育所を活用し、子どもたちの学びや成長を見守っていくことが望ましいという意見もありますが、子どもたちの学び合いの環境を作っていくためには、新たな認定こども園整備を行っていくということが重要であると考えています。

旧三河内幼稚園では、現在NPO法人により就学前教育・保育施設が運営されています。地域の住民説明会で、「三河内幼稚園を閉園することはやむを得ないが、子どもたちが集う場所として、活用を考えてほしいという」という要望をいただいたことがきっかけとなって、現在のこどもの森保育園としての活用が生み出された。

山田保育所が閉園した後の利活用についても、地域からの意見、提案等をいただきたいと考えています。

（意見）

・石川地域や保護者説明会での意見はどのようなものがあつたのか。石川に整備することを前提として意見を聞く場であるのならば、保育の中身に対する意見をすることになるのか。

（回答）

・保護者説明会での主な意見としては、財政面、交通対策、災害対策の他、「新園舎整備期間中の石川保育所園児の受け入れ先はどこでも希望できるのか」、「石川保育所の園児全員が山田保育所に転園希望した場合、規模的に受け入れ可能なのか」といった意見をいただきました。

受け入れ先となる山田保育所については、トイレや保育室等に一定の改修を行う必要はありますが、石川保育所の園児全員を山田保育所での受け入れは可能であると回答しました。

交通安全対策については、地域によって通園路を設定したり必要な道路整備を行うこと、浸水対策については、建物構造を一部2階建てにする、園舎を高い場所に設置する等、専門家の意見等を伺いながら調整を図っていきたいことを回答しています。

財政状況については、4つの財政指標の内の1つ実質公債費比率が全国ワースト2位という現状があります。

実質公債費比率とは収入に占める借金返済の割合のことで、令和5年度現在17.2%となっています。

大きな要因は、合併後の下水道整備費の借金返済によるものですが、ピークは迎えており、他の指標はいずれも国の基準を下回っています。

町の借金は過去最少額、町の基金も約46億円を積み立てており、町民に過度な負担を強いることなくこども園整備ができる財政状況だと考えています。

・山田保育所は建設から45年が経過し老朽化が激しく、石川保育所、のだがわこども園についても同様の状況となっており、どのように子どもたちの教育・保育環境を整えることができるのかという観点で議論を進めています。

(意見)

・こども園と保育所の違いとこども園化にするメリットを教えてください。こども園化によって園児の人数が増えるが、1人の保育士が園児何人を教育・保育することになるのか現在と比較して教えてください。

(回答)

・保育所とこども園にどのような違いがあるのかということは、保護者説明会では説明を行っています。認定こども園では、3歳から5歳の園児のうち、幼稚園時間に通う園児を1号認定児、保育時間に通う園児を2号認定児と認定しています。0歳から2歳児は3号認定児となり、2号認定児と同様に、保護者の就労状況に応じて保育所に預けることができることになっています。

3歳から5歳児については、幼稚園枠の1号認定児と保育所枠の2号認定児と一緒に教育・保育を受けており、1号認定児については、保護者の就労に関係なく、教育・保育を受けることができることとなっています。

幼児限定となりますが、保護者の就労状況が変わっても通い慣れた園から離れることなく、同じ園を継続して利用できることがメリットと考えています。

3・4・5歳児の幼児クラスを、1クラス15人から20人程度の規模で就学前の教育保育の環境を整えたいと考えており、国の基準では園児30人に対して1人の先生を配置する基準となっていますが、与謝野町では20人に対して1人の先生を配置する基準としています。そのほか、支援が必要な園児に対しては、加配保育士や補助を配置するなど、国の基準を上回る教育・保育体制を整えており、新園舎となっても同様に配置することとしています。こども園では、幼稚園免許と保育士資格を併せ持つ保育教諭が園内外の研修を積み、就学前の教育・保育の充実を図っています。

(意見)

・石川保育所周辺地域は、町内でも交通量が多い地域だと思うが、この場所を交通事情から選定したことは適正なのか。

・石川地域は雨の被害が多いが、石川保育所周辺は災害に強いのか。

(回答)

・災害、交通事情については、専門家の意見を伺いながら、交通量の多いところだがどのようにすれば課題が解決でき、整備ができるのかということを検討しています。現在、野田川の改修も進んでおり、浸水被害は少なくなっていますが、絶対に浸水しないということはいい切れません。万が一の際にどのように対応していくのか、園の整備方法で防げるものもあれば、普段からの園と保護者との関係性や緊急の連絡体制を築くことで防げるものもあると考えてい



ます。ソフト、ハードの両面から安心・安全が担保できるよう、現在調整を図っています。

(意見)

・石川保育所周辺の土地の価格が高いのではと思う。現在の財政状況で、高いお金を出して今整備しないといけないのか。今整備することがメリットなのか、財政は大丈夫なのか、こども園を作って、子どもたちにとって良い保育ができるのか。

(回答)

・野田川地域の3つの就学前の教育・保育施設は、竣工から45年程度が経過し、それぞれが老朽化しており、施設に不具合が生じている現状にあります。

この施設の不具合によって生じる様々な悪影響が、勤務されている先生方の負担になっています。

教育・保育の安全性が確保できるのかということは、教育・保育を行う以前の問題であり、3園舎は、その危険性がある、また危険な事象が見込まれる施設となっている現状があります。

野田川地域の認定こども園の建設については、子どもたちの安心・安全な教育・保育環境を確保するため、早急に整備していきたいと考えています。

与謝野町の財政状況については、特に実質公債費比率という借金の返済割合が高いということが、昨年大きく報道されました。

・町の実質公債費比率が、厳しい状況にある原因については、平成18年の合併から23年に至る5年間において、町域の均衡ある発展と美しい自然環境の整備の観点から、下水道整備を短期間に集中的に進めた際の借金返済の割合が実質公債比率に跳ね上がっている状況となっています。

町としまして、住環境の改善、自然環境への配慮という面から必要な施策であったと考えております。この実質公債費比率が高止まっていることは確かですが、子どもたちや保護者が求める施設整備を止めてもいいのかということにはならないと考えております。制約ある財政状況であっても、事業の実施を考えていくことが行政に課せられた責任の一つだと考えております。

実質公債費比率については、一定高い状態にあります。基金の状況、他の財政指標、借金の減少傾向、単年度黒字等を考え、実質公債費比率の上昇を抑制しながら、施設整備ができる財政運営を行っており、本整備によって、住民サービスに過度な低下を起すことはないと考えています。

財政状況が厳しく、住民が求められる行政サービスのあり方も多種多様で複雑な状況の中であっても、子どもたちの安心・安全な施設環境の整備は、必ずやり遂げなければならないものであると強く考えております。

・認定こども園については、第1期与謝野町の子ども・子育て支援事業計画において、岩滝・加悦・野田川地域にそれぞれ1園の認定こども園を整備することを謳っており、基本方針の変更はしていません。

(意見)

・財政面は大丈夫ということ、子どもの保育教育が大切だと言われたこととしても嬉しい。予算は大丈夫というものの、私達が暮らしていく上で、大切な予

算は他にもある。よい施設環境にして欲しいとは思いますが、土地の買収や造成にお金をかけるより、公約にこだわることなく、良い安い土地を探されてもいいと思う。

・山田ではなく、一番危ない土地が高い場所になぜ整備するのか。

(回答)

・この間、石川保育所、山田保育所、のだがわこども園、また野田川グラウンドや野田川庁舎の敷地などについても候補地として検討を重ねてきました。

検討を進めていく中で、できる限り買収費を伴わない土地取得等、様々なことを考えながら検討してきた結果、最終的にこの提案となりました。

公共施設の整備のあり方などについても、できる限り公有地を有効活用していくという方向性で議論を進めてきており、その議論の整合性を含め、検討した結果、石川保育所およびその周辺の土地が実現可能なものではないかと考えています。

・災害に対して危険性があるということについては、町内どこでも災害を受ける可能性はあり、こども園整備は子どもたちにとって特に重要な役割を担う施設であり、災害リスクを低下させていく必要があります。

・石川保育所周辺においては、この間、豪雨等により周辺道路が冠水することはありましたが、業務に支障をきたすような大規模な災害、水害に遭った経過はありません。

特に平成16年の台風23号以降、野田川の河川改修も飛躍的に進んでおり、一定の保水力を河川においても保つことができている、過去の経過からも石川保育所が浸水被害を受けたことはなく、一定の安全性は担保ができるものと考えています。

・交通事情については、多くの車両が行き交う地域でもあり、どのような車両の誘導であれば、地域の中で交通量を受け止めることができるのかということも地域等からも提案をいただいています。専門的な見地で、車の動線をしっかりと考え、できる限り影響が出ない対応を検討していきます。

・野田川地域の認定こども園の施設整備を行っていく上で、実現可能な場所をこれまでも様々な観点から検討を重ねてきており、この案に対し、保護者の皆様方を中心に理解は広がっており、この案を実現していきたいと考えています。

(意見)

・現在の保育所の保育士配置と比較して、今より悪くなるのか、良くなるのか。

(回答)

・保育士の配置について、現在、0歳児は3名につき先生が1人、1歳児、2歳児は6名につき、先生1人を配置し、クラスは年齢ごとに分かれています。

4歳児、5歳児については、園児20名につき先生1人を配置し、加えて支援を必要とされる園児には、必要な加配保育士・補助保育士を配置しています。新しいこども園になっても、必要な先生を配置することとしています。

(意見)

・教育・保育のお金を節約してほしいわけではなく、お金をかけるなら保育そのものにお金をかけてほしいと思っている。

・調べたわけではないが、石川地域は土地が高いと思っており、造成や買収にもお金がかかる。物価が高騰している中、45年経過した建物は、修理ができない本当に危険な状態なのか。様子を見て、時期を考えてもいいと思う。施設が老朽化しており、新しい整備が必要ということは理解できるが、それが今の時期なのか疑問に思う。

・幼稚園と保育所の機能を持つこども園のことがよく理解できない。幼稚園と保育所が一緒になるというイメージができない。保育だけをして欲しい、教育がしてほしいという保護者の意見を両方聞くことができるのか。

・保育教諭の免許は今から取得されるのか

・町長の子どもさんは、こども園ではなくこどもの森保育園に入園されている。

#### (意見)

・石川に大規模な園舎が新しく建つという話が進んでいる。以前の計画は、皆さんの声が受け止められ、白紙を決断された。

・大規模な園が2か所あるが誰でも希望できるのか。加悦と岩滝に大規模な園があり、小規模な公立保育所を大事にする必要もある。支援や保育が必要な時期の子どもたちにとって、小規模な保育所や大規模な園があるという多様性も大事だと思う。子どもたちがどういう保育が受けられるのか、保育士が働きやすい職場なのかという中身が重要である。今の園にお金をかけるという方法やもう少し時間をかけてやっていくことを考えてほしい。

#### (回答)

・与謝野町における幼保連携型認定こども園の運用については、太田前町長時代に子ども・子育て会議等で議論され、1つの地域に1つの新園舎を建設していく方向性が示されました。その後の子ども・子育て会議でも方向性の確認を行っており、町立の教育・保育の基盤としては、町内に3つのこども園を建設・運用していくこととしています。また民間事業者が運営するこどもの森保育園や加悦聖三一幼稚園も重要な教育・保育基盤であると考えています。3つのこども園と2つの民間が運営される施設を支えていきながら、子どもたちの教育・保育環境の充実に向けて取り組んでいくこととしています。

・教育・保育の専門的な見地を持つ方々に参画をいただいている会議体である子ども・子育て会議において、野田川地域の認定こども園についても議論いただいています。教育・保育の内容については、現場の先生や支援センター指導員の声を聞く中で、育ち合う環境は現代社会において、極めて重要な要素になっています。

育ち合っていく環境を作っていく中で、どのような教育・保育のあり方がよいのかということも、十分に議論を重ねてきた結果が、現在各園で取り組んでいる教育・保育の内容となっています。

・各園で行われている教育・保育は、不十分なものではないですが、日々改善をしていかなければならないものと考えています。現場の先生の思いや考えを組み入れていくということも重要であると考えています。

岩滝地域と加悦地域のこども園整備は完了しており、野田川地域の認定こども園整備が遅れているという状況を見過ごすわけには行かないと考えています。

これまで9回にわたり、こども園・保育所での保護者説明会を重ねることで

この施設整備に非常に大きな期待をいただいていると認識しており、これまでの議論のプロセスを集結させた案になっていると考えています。

(意見)

- ・孫がこどもの森に通っておりとても良い保育園だと思っている。
- ・こども園の説明を聞いてもわからない。協議を重ねてきたということも具体的にわからない。こども園化をしていくことは、現場の先生や支援センターの職員からの声なのか。

先ほど多様性の話もあったが、保育所を残してもいいと思っている。

保育を希望する人と、教育を希望する人を同じところに対応することは難しく、先生も複雑だと思う。教育ではなく、保育を望む保護者もいると思う。

- ・この説明会の提案に疑問があるから質問しており決して批判ではない。

(回答)

- ・保護者説明会においては、こども園の内容や保護者の不安や疑問等に対し、園長が回答しています。

本日は住民説明会であり、園長が出席していないため、納得いただけるこども園のメリット、教育・保育の中身について説明ができません。今後は、適切な回答ができるように努めていきたいと考えます。

- ・現場の先生によって、質の高い教育・保育が展開されていると認識しています。

(意見)

- ・小学校の統廃合の見通しは。

(回答)

- ・野田川地域の小学校の再編時期については、令和12年以降にならないと、適正規模・適正配置の観点から難しいと教育委員会で判断されています。

この教育的な視点を持った統廃合の年度設定については、教育委員会が説明を行う形が適当であり、改めて説明する機会を設けたいと考えます。

- ・野田川地域においても、こども園の統合と小学校の統合を連動させていくことが理想的だと思いますが、学校統廃合の時期に合わせて、認定こども園を整備することになれば、岩滝地域の認定こども園が整備されてから相当期間が経過することになります。この時間をどう捉えるかという点について、一定の議論を行いました。

認定こども園の整備を前倒しで行うことについては、行政内部、子ども・子育て会議等を通じた専門的な見地からも、導き出されています。

令和12年度に直ちに学校統廃合が行われるわけではなく、その時期を待つことは難しいと判断しています。教育委員会の見解については改めて何らかの形でお返ししたいと考えてます。

(意見)

- ・財源は合併特例債を活用するのか。基金を活用するのか。
- ・財政が厳しいのであれば、公設民営方式を採用してほしい。

(回答)

・概算整備費の見込み額は、令和5年9月時点で14億3,300万円と試算しており、財源構成については、補助金、起債、基金の活用が軸になると考えています。この財源構成の詳細については確定する段階でないため、適切な時期にお伝えしたいと考えています。

・運営方式については、公設公営を基本としながら、民設民営、公設民営方式を検討することとしています。民間活力の活用という点については、検討していく必要があると考えています。

・保護説明会では、現在の先生方と一緒に学んでいきたい、親しんだ町営の園に預けたいという意見が多かったと認識しており、現場の教育・保育活動を担う先生方の力量の高さの表れであると捉えています。

・財源、運用方式についても検討段階にあり、この場で明確にお答えをすることができませんが、時期を見て説明していきたいと考えております。

(意見)

・こども園の整備にあたり、国庫補助はあるのか

(回答)

・認定こども園を運営することができる法人形態は、行政、学校法人、社会福祉法人となっています。民間法人が建設する際には、一定額の国庫補助金が受けられますが、行政が建設する場合は、民間が建設する場合と比較し、補助金額は減少します。行政が整備する場合は補助金額が少なく、民間法人が整備する場合は、補助金額が高い制度設計になっています。行政が整備する場合の補助金額の引き上げ要望を行っている段階にあります。

(意見)

・山田保育所付近は、土砂災害警戒のレッドゾーン区域となっている。小聖神社付近も被害が発生しているが、公共施設があることから山田保育所付近の砂防事業を優先することを建設課に回答している。山田保育所が閉園するのであれば、砂防事業の優先順序を変更することを区として検討したいが、変更することは可能か。

(回答)

・この計画(案)が順調に進捗しても、令和9年度までは山田保育所を活用した教育・保育活動を行うこととなり、その間の安心・安全は必ず担保しないといけないと考えています。

・砂防事業の優先順位の変更については、建設課に確認後回答します。

➡建設課確認の結果、優先順位の変更はできません。

(意見)

・岩屋、三河内、市場、山田地域から通園されることにより、石川地域の交通量が増大する。国道に右折レーンや信号機の設置、町道を一方通行にする等、事故がないよう安全対策を講じてほしい。下山田方面からは、兵右衛門橋から石川足立石油に抜ける府道が、路側帯もなく離合の際に危険を感じる。下山田からの通園ルート of 安全対策を考えていただきたい。

(回答)

・交通安全対策については、警察等の関係機関としっかりと協議をしていきたいと考えており、現在、各方面からの通園路パターンを検討している最中であり、案がまとまり次第、提案させていただきます。

## 四辻区住民説明会意見内容等（2/1 実施 参加者 14 名）

（意見）

- ・ こども園整備に投資することは大切であると理解している。小学校の児童数も減ってきており、統合しながら空き校舎を使うことで、支出を抑えられると考える。出生数が1年間に、80人を切ろうとしている中、与謝野町全体でこども園を何園にするのか。
- ・ 今後の支出による町の借金を考えると不安を感じる。

（回答）

・ 与謝野町の会計は、一般会計とか特別会計から約200億円の予算を編成しています。一般会計については、年間約110億円程度の予算を確保しながら、事業を執行している状況にあり、一般会計110億円のうち、約30%が自主財源で、約70%は国や、府の支援を受けて成り立っています。

・ 財政指標の1つである借金の割合を示す実質公債費比率という指標が17%前後で推移をしていることが、昨年、新聞で報道されました。

実質公債費比率が高い原因については、合併直後に行った下水道整備に係る借金の返済の割合が高く、現状の比率になっています。下水道整備については、住環境や自然環境の保全の観点からも必要な整備と考えていますが、財政に影響を与えているということは間違いなく、兼ねてからその状況を分析し、その比率を引き下げるための政策も取り組んできています。一方で、与謝野町の借金については、合併以後、過去最少額、基金についても総額で約45億円を保有しています。

財政構造としては非常に厳しい状況にあるが、基金や他の財源を求めることにより、一定コントロールできる財政状況であると考えています。有利な起債の活用、国からの支援、基金を活用し整備することで、大きな住民負担をかけることなく整備ができるものと考えています。

・ 財政を心配する多くの意見をいただいております。不安を払拭できるよう説明責任を果たしていきたいと考えています。また歳入歳出の規模抑制や他の是正措置を講じていくことも必要であると考えています。

・ 小学校の再編と合わせた認定こども園整備が理想であると考えますが、野田川地域の児童生徒数は緩やかに減少しており、統合は令和12年度以降になると試算しています。令和12年度以降の小学校統合後の整備では、先行して整備したつばきこども園、かえでこども園から、10年以上が経過することとなり、老朽化が進む現園舎の状況からも、学校統合を待たず先行して整備することを判断しました。

（意見）

・ 新しい園舎でのサービスを受けられることは子どもたちにとって良い事だと思うが、子どもたちの将来負担になるのはよくない。

・ 園舎を整備した場合、園児数的に将来3園が必要にならなくなると思うが、いつ頃なのか。投資効果がいつまで続くのか。

・ 石川地区は暮らしやすい地域になっており場所的に良いと思う。当初計画では、施設をなくすということに地域や利用者の抵抗があった。

・四辻地区からは、のだがわこども園までは歩いて行けたが、車で行く人もいるので、近くなくてもよい。

・わーくぱる付近に計画していた整備が、用地取得や交通等の色々な要素により、石川に変更となったが小学校の再編も踏まえ、こういった未来を与謝野町のまちづくりとして描いているのかがわかると安心感が得られると思う。

(回答)

・野田川地域の新しいこども園についても、かえでこども園、つばきこども園と同程度の規模が必要であると考えています。社人研等のデータから、向こう20年間は180人定員の園が3園必要であると試算しています。

・現在、山田保育所が築45年、石川保育所が41年、のだがわこども園が43年となっており、施設の耐用年数は50年程度を見込んでいます。これまでから施設の長寿命化を考え、20年ごとの大規模修繕を計画的に実施し、安心・安全が担保できる整備を行っていれば、施設を使い続けることは可能と考えますが、これまで計画的な大規模改修等は実施できていない現状があり、各園ともに老朽化が進んでいます。

・幼保連携型認定こども園を3地域に1園ずつ新築していく計画については、10年前から掲げている方針であり、この間も、子ども・子育て会議等で検証し、方針を現在も引き継いでいます。岩滝地域、加悦地域については、計画通りに新園舎を開設・運用していますが、野田川地域については、2018年前後に野田川中央公民館付近の敷地を活用した整備計画を提案したが、施設利用者に納得いただける説明や配慮ができなかったことが原因となり、計画を白紙に戻すことを決断しました。次なる候補地としての可能性が今回の提案となっています。

・野田川中央公民館付近の計画を策定する際にも、当該地域だけでなく他の候補地の検討も行いましたが、検討過程の中で実現の可能性が低いと判断した経過があります。今後、投資を予定している公共施設は、認定こども園と給食センター、野田川地域の小学校再編整備となり、できる限り早い段階で住民の皆様方にお伝えしながら、町の姿を一緒に共有していく努力をしていきたいと考えています。

(意見)

・概算整備費見込額14億3,300万円の内訳毎の事業費を教えてください。

・運営方法については、公設公営だと14億3,300万円になるのか、民設民営であれば、この金額を出せる民間があるのかとも考えられる。町として、公設公営でいく方針が決まっている説明に聞こえる。

(回答)

・園舎解体費7,650万円、園舎建設費11億2,800万円、用地買収、造成、設計業務等のその他経費総額で2億2,850万円と試算しています。運営方法については、公設公営を基本としていますが、今後決定していくこととしています。



(意見)

・町のこれまで方針では、新たな用地を求めない方向性が示されていたが、今回この方針が変わった理由は。

(回答)

・統合前の施設の総量を超えない範囲で、既存施設の土地に隣接する新たな土地を取得することは問題ないと考えています。

(意見)

・一種の詭弁かなとは思ふ。町全体のビジョンを考えると、計画候補地が商業地域にある、交通量の多い国道沿いでもあり、こども園の用地として疑問に思う。町全体のビジョンを考えるのであれば、野田川体育館がいつまでも使用できるわけでもなく、給食センターが移転するのであれば、野田川中央施設一帯での整備を再検討することはできないのか。新たな土地を求めるという方針が決まったのであれば、わーくぱる周辺の農地であれば、石川よりも安価で買収できると考えるが、今後の検討にはならないのか。石川に決め打ちで進めるのか。

(回答)

・当初計画を白紙とした時点で、野田川地域で運営しているのだがわこども園、石川保育所、山田保育所のいずれかの用地を活用した候補地選定に方向転換しています。候補地協議の中では、用地取得の見込み、交通事情、災害面の大きく3点を軸に検討し、石川保育所周辺であれば候補地としての可能性があるかと判断し、最終的に候補地を決定しました。

(意見)

・京都新聞の記事で、石川地域で整備を進めることが決定的なように報道された。災害面では、石川地域は水害には弱いところもあり、考慮された結果であっても納得されない方も多いと思う。当初計画地での整備についても、5年前とは受け止め方も変わってきていると肌で感じている。マニフェストのとおり3園のいずれかを活用した整備を進めていくことを踏みとどまって、広い視野で考えてほしい。

町全体のビジョンとして、石川地域が候補地として適当なのかを再度考えていただきたい。野田川地域のこども園整備は既に遅れており、将来に禍根の残らない形を考えてほしい。

(回答)

・野田川地域の認定こども園の候補地を検討していく中、石川保育所及び周辺土地を活用する形であれば、事業を前に進めることができるのではと判断しています。当初計画に対する考え方が、5年前とは異なるとのことでありましたが、前計画に対する反対は今も強く残っていると思っています。

再度、前回の議論に戻していくことは、住民感情の面からも難しいと考えており、町としては保護者との対話を重ねていく中で、一刻も早い竣工を目指したいとを説明しています。

今後の公共施設のあり方を考えた際、野田川体育館、給食センター、中央公民館、商工会の本所のあり方についても、議論をしていかなければならない課

題だと認識しています。

利用者の方々に対しては、今後、施設をどのように考えるのかということについて、意見を伺うことはできると考えています。

(意見)

・計画候補地には、既に建物があり、取得できない用地があるが支障はないのか。建物の後ろ側に子どもがいた場合に、見通せないこともあると考えられる。

(回答)

・事業予定地における、園舎配置、駐車場、周辺環境との調和については、今後整備計画を具体的に取りまとめていく中で、重要な視点であると考えています。周辺の住宅や事業所の皆様方との協力関係を築きながら、整備を目指していきたいと考えています。

当初計画地のわーくぱる周辺では、周りに事業所等もなく、安全であるという考え方もありますが、何もないということは、子どもたちにとって、気づく力、考える力、周りから何かを得るという力を育むことにつながらないとも捉えられると思っています。

これから生きていく子どもたちにとって一番大切な力は、人と関わっていく力、色々なことを自らが考えていく力、気づく力を身に付けていくことだと思っています。

キャッシュレスやタッチパネル等、世の中が便利になりすぎて、子どもたちが人と話して、人と関わって、人と気持ちを調整するという経験値が少なくなってきており、今回候補地での整備は、とても面白い園ができるのではないかと期待を持っています。確かに死角もありますが、子どもたちが自分たちの安全な場所を確保するためにはどうすればいいのか等、子どもと一緒に考えることも大切な経験であると考えます。

園に隣接した事業所等があることは、子どもたちにとってはとても大事な力が育まれる場所だと信じています。

(意見)

・のだがわこども園でも、送迎時間帯には車両がスピードを出して走行している。交通量の多い石川バイパスから、かなりの車両台数が出入りすることになるが問題はないのか。施設が老朽化しており、新しいこども園を提案されれば誰でも整備してほしいと思うが、石川地域に整備していくことを説明した上で、保護者から新園舎の早い整備を望まれているのか。

(回答)

・交通量に関しては、国道176号線、町道石川保育所線等に隣接する形となり、今後専門的な見地で交通量調査も行った上で最適な交通配置を考えていきたいと考えています。交通量の状況をどう捉えて対策を講じていくのかについては、各説明会でも多様な意見をいただいています。

浸水対策については、これまでケーズデンキ付近で道路が冠水した経過がありますが、石川保育所自体に著しい水害があったという経過は近年確認しておりません。敷地の詳細を詰めた上で、敷地の嵩上げ等の水害対策を検討します。

交通量や災害に対する配慮は、今後の事業構想をまとめていく中で、専門的

な検地を十分に踏まえ、最適な方法を生み出していきたいと考えています。

(意見)

・今日の説明会の開催を回覧板を見て知ったが、より多くの人たち、特に子育て中の方々が出席する中で構想を説明する場であるのならば、あまりにも広報が貧弱である。しっかりと広報し町民に知らせてほしい。

子育て中の若い方々が足を運んでくれる手立てを考え工夫してほしい。

(回答)

・野田川地域の認定こども園の整備については、10月から各園の保護者会に対して段階を追った説明を行っており、現時点で各園4回ずつ、計12回の説明会を実施している状況にあります。

保護者からも交通事情、災害対策、保育所と認定こども園の生活の違い等も含め様々な意見やご指摘をいただいています。いただいた意見をこれから活かしていくことを含め、対話を重ねてきている現状にあり、3園の保護者説明会においては、一定の理解をいただいているものと認識しています。

・子育て支援センターにおいて2回の説明会を行うこととしており、今後施設を利用される子どもたちの保護者に対しても、しっかりと説明を行い、イメージ共有を図り、意見等を取り込んだ形で整備を進めていきたいと考えています。

住民説明会については、1月・2月で、野田川地域の各地区で説明会を開催することとしており、住民説明会にお越しいただけるよう回覧板以外にも、積極的な広報に配慮していきたいと考えております。

(意見)

・広報に関して、赤ちゃん訪問を行っていた際、地元の方でない、隣組にも入っていないという方が結構おられた。その世代の方がこども園に関係してくる。

町内放送等、大々的な広報がお願いしたい。広報しても参加されない場合は仕方がないが、情報が伝わっていない。

(回答)

・就園前の子どもたちの保護者に対しては、子育て支援センターや、健診会場においても説明会を行っています。未来の利用者について、どのように広報していくのかについては、工夫していきたいと考えます。

(意見)

・のだがわこども園は建物の老朽化が進んでいると感じている。特に気になるのが、夏場は熱中症アラートが出ると、外では遊べず、ホールも40度近くになり、子どもたちは、保育室の中でしか遊べない状態となっている。かえでこども園、つばきこども園は、ホールにもエアコンが設置されており、施設環境が平等でなく、何年もこの格差が続いている。かえでこども園、つばきこども園に通う子どもたちと、のだがわこども園に通う、岩屋地域、市場地域、三河内地域の子どもたちにはかなりの格差がある。

1日でも早く園舎を整備いただき、与謝野町の子どもたちが、どの園でも平等な保育が受けられる計画を進めてほしい。石川地域の過去の浸水被害でも、園舎自体が被害を受けたことはなかったが、十分な対策や配慮をお願いしたい。

(回答)

・のだがわこども園舎の老朽化に対しては、応急措置で対応している部分が多く、この状況を改善していくため、できる限り早い新園舎の整備を取り組んでいきたいと考えています。

水害対策については、整備に伴う地形の変化によってどのような想定ができるのか等考えていく必要があり、専門的な見地からの意見をいただきながら、より安全な整備計画（案）を取りまとめていきたいと考えています。

(意見)

・こども園の必要性は認識しているが、財政面が気になっており、実質公債費比率17%を減少させていくためには、できるだけ支出を減らす必要がある。

事業の必要性や緊急性等を選択して事業を進められるが、どのようにし実質公債費率を減らしていくのかが見えない。必要な事業がたくさんある中、抑える事業、今やるべき事業を理解してもらうことが、住民理解の部分で一番大切だと思う。

(回答)

・実質公債費比率については、過去の投資の返済が実質公債費比率の増加の主たる原因となっていますが、現状一定のピークを迎えつつあり、令和6年度決算からは緩やかに実質公債費比率が減少していく見込となっています。

現在想定している今後の投資については、野田川地域の認定こども園と学校給食センター、そして野田川地域の小学校の再編整備となりますが、財政見直しについても一定想定しています。この想定を伝えていくことが、不安の払拭や和らげていくことにつながると考えています。施設への投資と財政安定化について、両立できる根拠を常に発信していくという姿勢が重要だと考えます。

今後の財政状況について、詳細を住民の皆様にお伝えする工夫をしながら、財政を健全な状態で維持しつつ、必要な投資を行うことについて、住民の皆様の理解が得られるよう、一層努力を重ねなければならないと考えています。

(意見)

・交通量や送迎ルートは考えているのか。かえでこども園付近とは、交通量が全然違う。つばきこども園は進入路が確保され、かえでこども園は、岩滝体育館駐車場から園まで歩いて送迎されている。石川ではどのようになるのか。巡回バスがあるのか。

180台の車両が、ある時間帯に集中することになるが、計画地の中に職員駐車場、保護者駐車場、ロータリー等を設置するのか。

(回答)

・様々な意見を伺いながら、現在、車両の流れと移動経路を検討しています。三河内地域、岩屋・市場地域、山田地域等、各地域毎の通園路設定を考慮しており、どのように安全安心を担保していくかを協議しています。

(意見)

・石川診療所の交差点も事故が多発しており、園舎の周囲道路は拡幅等の対策や規制が必要になると考える。

交通量が多く、車両の流れが他の園とは異なる。

(回答)

・各説明会において交通対策に係るご意見をいただいております。対策を検討しています。道路拡幅、右折専用道路等の対策を考えていますが、決定の段階ではありません。意見に対しての改善策を見出し、安心安全の確保に努めたいと考えます

(意見)

・交通対策を含め、この計画は進んでいないと理解したが、建物自体は高いフェンスで囲うことになるのか。

(回答)

・現状、整備計画地を決定し、今後専門的な調査をしていくための様々な手続きに入っていく段階にあります。交通のあり方についても、道路拡幅、一方通行等、様々な対応策を検討中であり、現時点で確定をしていることはありません。

かえでこども園、つばきこども園とは、環境が異なることはご指摘の通りであり、今後、計画の詳細を詰めていく段階において、対応策等が決定し、公表できる段階になり次第、お伝えするとともに周知に努めていきたいと考えます。

(意見)

・説明会をするのであれば、役場内で問題提起し、住民からの意見に対してしっかり答えられる形で開かないと意味がない。説明会をしたことを既成事実化しているように感じている。

(回答)

・説明会では、整備計画（案）概要版資料に示した内容の範囲で、できる限りの回答を行っています。施設がどのような形で整備され、交通事情や災害対策をどのように実施していくのか等、検討段階の部分についてのご質問については、明確な回答ができませんは、計画を前に進めていく中、説明責任を果たしていきたいと考えています。

(意見)

・参加人数が少なく非常に残念であり、直接関係する保護者の声を聞く機会がなく、どのような意見がでていたのか共有できない。

住民説明会でも保護者の声が聞けるよう開催方法を考えてほしい。

(回答)

・保護者等との共通の対話の場の設定、保護者説明会Q & Aの書面共有等、方法を検討したいと考えます。

(意見)

・保護者として、のだがわこども園に子どもを預けている。

保育所、こども園では何度も説明会をしていただき、保護者は一通りの説明を受けており、3園ともに保護者からは大きな反対はなかったと聞いている。

のだがわこども園の保護者であれば、石川地域よりも今の園舎から近いわー

くぱる周辺地での整備を望む保護者は一定いると思う。

石川地域に整備した後、野田川体育館、給食センターが解体され、空き用地となれば、わーくぱる周辺地がよかったと思うかもしれないが、数年前に白紙になった時点で、保護者は整備できないものと思っている。

優先順位としては、子どもたちが安心・安全に利用できる施設整備であり、場所ではない。当初計画で新園舎が整備されていれば、令和4年度には開設しており、この計画を進めても、開園が令和9年度中となり私の子どもは通うことはできない。

熱中症アラートが出れば、プールやホール遊びができず、狭い保育室で子どもたちが遊んでいるのは親としてかわいそうに感じている。

老朽化も進んでおり、今から候補地を見直す等これ以上遅れる整備になることは子どもたちにとってはよくないことだと思っている。

連合保護者会アンケートの意見を陳情書として町に提出しているが、3園ともに保護者としては大きな反対はなく、早い整備を望んでいる。

財政、交通事情、災害面等を心配する意見については、町でしっかり対策していただけるものと保護者は信じている。

3園とも老朽化し必要な修繕はしてもらっているが、新園舎が整備されるのであれば、今後使用しなくなる園舎への修繕費用は、もったいないと感じている。

子どもたちのことを思う親としては、石川保育所周辺の候補地について、受け入れている現状だと思っている。

(回答)

・当初計画で進んでいけば、平成34年度末には野田川地域の認定こども園が開設できていたということ強く認識しています。各園の説明会において、保護者の皆様方から、新園舎を望む声をいただいております。今回の整備計画(案)の精度を上げながら、より良い整備ができるように引き続き尽力していきたいと考えております。

今後も保護者の目線から様々にご意見を賜りたいと思います。

## 岩屋・幾地住民説明会意見内容等（2/14 実施 参加者 4 名）

（意見）

- ・ 今回の説明会は、区民宛の回覧で知った。1日だけなので予定が合わなければ参加できない。一覧表にしてどこにでも参加できるようにしてほしい。開催場所も地区の公民館であれば歩いていける。
- ・ 子育て世代の声が聞いてもらえているのか。

（回答）

- ・ 保護者については、野田川地域のこども園・保育所で4回ずつ、子育て支援センター、乳幼児健診の場においても説明会を実施しています。  
今回は幾地・岩屋地区住民に向けた説明会となっています。  
今後、整備計画を進めていくこととなれば、より多くの参加がいただけるよう広報、場所等は工夫していきたいと考えています。  
説明会の場所については、区と調整し決定しています。

（意見）

- ・ 野田川地域には現在小学校が4つあり、保育施設を1つに統合しても小学校は別々になるが、3園を1園にする必要があるのか。町長の公約だからか。地域に保育園があると歩いて通園することができ、親子で会話をする機会になる。

（回答）

- ・ 各地域に幼保連携型認定こども園を1箇所ずつ整備するという方針は、前町長からの方針を継承し、10年来のものです。  
社会環境の変化等に対応するべく、方針については子ども・子育て会議等で確認しており、各地域に新築園舎を整備することは妥当であると判断しています。方針を受け継ぎ、場所を含め、新園舎を整備・検討していくことを公約としており、石川保育所周辺を整備候補地として決定しました。

（意見）

- ・ 3園を順番に建て替える方法は考えられないか。

（回答）

- ・ これまでの協議・検討の結果、野田川地域3園の長寿命化は考えておりません。  
園舎の長寿命化については、建設から20年毎に大規模改修等を行うことで、園舎の耐用年数を延長することは可能ですが、これまで大規模改修等は実施していないこと、現園舎の改修では、現在の教育・保育ニーズや生活様式に合った改修が叶わないことから、新園舎整備が有効であると判断しました。  
経済的な事情だけを考え集約を進めているのではなく、安心・安全面、多くの人たちと関わり合いながら、子どもたちが育ちあい、成長することが重要との考えから、3園を継続することよりも新園舎整備が有効であると考えています。

（意見）

- ・ 大人数になれば災害時に担任が園児を把握できるのか。  
小規模な園で、子どもをゆったりとした環境で保育することが望ましい。

(回答)

・各こども園、保育所では、園児や保育士に対し、有事の際の避難行動が身に付けられるよう、毎月、避難訓練（火事・台風・地震・防犯・不審者等）を行い実践しています。

石川保育所の周辺には事業所もあり、園舎の外にも目を向け、地域の自然や資源を活かした保育や、園庭にも色々な環境を作ることができると考えています。

少人数で丁寧な保育を望まれる意見はありますが、見方・捉え方が固定化してしまう可能性もあるのではと思っており、人数が多いから子どもたちを丁寧に見ることができないということではないと考えます。

人数が増えることで、複数の目で子どもたちを見ることができる、たくさんの人と関わるができる環境の中で、子どもたちの可能性を多様な面で捉える教育・保育が実践できるこども園にしていきたいと考えています。

(意見)

- ・多人数が通うことになり、事故が起きないか心配である。
- ・通園バス導入の予定はあるのか。

(回答)

・現段階で、通園バス導入は考えておりません。

これまでの説明会でも交通事情について、たくさん心配の意見をいただいています。現在は建設課で何通りもの進入路等の案を考えており、事業化が確定次第、専門家の意見等を聞きながら検討を進めていきたいと考えています。

(意見)

・現在、民生児童委員をしており、小学校・中学校で36年間の教職の経験から意見する。

教育において、多人数、少人数のどちらがよいかということについては、少人数だと、先生に頼ってしまう傾向になるが、多人数で揉まれていると課題を自分で解決していくという人生において大事な力をつけることができる。

発達段階に合った力を身に付けた子どもは小1問題もない。

大勢の中で人間関係をつくっていくことが大事である。

岩屋小が市場小に編入され、岩屋から市場小まで8年間、毎日、子どもたちと一緒に登校しているが、岩屋の子はよい意味で変わったと感じている。

集団の中で揉まれることは、子どもにとって大事で成長につながる。

地域での子育てを考えても、小さな狭い地域で見ると、大きな広い地域で子どもたちを見る方が良い。

今日の説明会は参加者が少なく、関心の度合いが低いのが気になるが、子どもは、3歳までに保護者や先生等、養育者との間に信頼関係を作ることが大切であり、大勢の中でもまれながら信頼関係を作ることができれば子どもはしっかり育つと考えている。

(回答)

・これからの時代、自分で考えていく力、人と力を合わせていく力、調整していく力は大切な力だと思っています。



(意見)

- ・新園舎開園時に定員180人を上回る場合は、子どもが減る予測で定員を決めてよいのか。

(回答)

- ・令和9年度の野田川地域の園児数を約200名と試算しています。180人定員であっても、216名までの受け入れは可能であり、家庭で保育される方や他園を選択される方も一定数あるものと考えています。

(意見)

- ・中学生、小学生と保育所の子どもと一緒に考えてはいけない。日本の保育基準は国際的に見ても劣っている。

少子化だが、障害のある子どもや支援の必要な子どもが増えており、見守ることが必要である。

3歳までの期間が大切なのであれば、その期間に大勢の中で揉まれていたら落ちこぼれてしまう。大勢の中での喧騒が耐えられない子どももいることから、ゆとりをもって保育ができるよう保育所を残してほしい。

経済効率しか考えていないように思うが、職員も180名~200名の子どもを全員覚えられるのか。

(回答)

- ・与謝野町では1クラス15~20人程度が適正規模と考えています。

これまでから国基準を上回る職員を配置しており、今後もより丁寧な教育・保育を行っていきたいと考えています。

過去、かえでこども園では、190人を超える園児が在園していました。幼児組、乳児組の職員は、全園児とは言えませんが、クラス外の園児のことも把握しているものと認識しています。

コロナ感染症の影響により、幼児組と乳児組の交流ができていませんが、今後は、職員が全園児と接する機会を設けていきたいと考えています。

(意見)

- ・他地域から与謝野町に転入し、今日の説明会は回覧で知り参加した。4月からは、のだがわこども園に子どもが入園する予定である。

多人数の中での保育、少人数での保育のそれぞれに良いところがあるが、どちらがよいのかはわからない。

(回答)

- ・野田川子育て支援センターでも、こども園整備に係る説明会を実施していますが、未就園の子どもを育てている保護者へのアプローチについては、工夫したいと考えます。

妊娠期から出産・育児に関するご質問や提案等は、子育て応援課にお寄せください。

(意見)

- ・保育所は、子どもにとって初めての集団生活の場となり、子どもの育ち・環境を第一に考えてほしい。

- ・国道 176 号に、右折・左折専用レーンは作られないのか。  
町道を整備して専用道路を作ったほうが安全だと思う。

(回答)

- ・事業化が決定次第、専用レーンや信号、町道整備、送迎ルートについて、関係機関、専門家等と協議・検討していきたいと考えています。

## 上山田住民説明会意見内容等（2/21 実施 参加者 9 名）

（意見）

- ・こども園の整備は子どものためになっているのか。

（回答）

- ・子どもたちのために野田川地域に認定こども園を整備していきたいと考えています。

公共施設等マネジメント推進委員会からも、新園舎の整備は速やかに進めるべきとの答申をいただいています。

園を支える先生、職員の処遇等を考えていくことも、子どもたちのためであると考えています。

（意見）

- ・孫がつばきこども園に通っているが、きれいなすばらしい園で教育・保育を受けている。野田川地域の新園舎の計画が白紙となって、ようやく今回の整備計画（案）が示された。つばきこども園、かえでこども園同様に、野田川地域の子どもたちも、同じ環境で教育・保育が受けられるようスムーズに計画を進めてほしい。

計画地の敷地面積は、つばきこども園の敷地面積より狭いが、園児数に見合う十分な駐車場等が確保できるのか。

（回答）

- ・計画地の敷地内に、かえでこども園、つばきこども園の園舎を配置したシュミレーションでは、100台程度の駐車スペースの確保は可能であると考えています。

（意見）

- ・決定事項の説明を受けたように感じている。

計画が立った段階で説明会を設けていただき、内容を区民に投げかけて、計画を理解していただくのが重要だと考える。今回の説明では、用地買収後、直ぐに計画を実行するといった報告だけの場を設けていただくやり方は、間違っている。

（回答）

- ・計画候補地を石川保育所周辺とすることは決定していますが、整備計画（案）の段階であり、事業化は決定事項ではありません。

用地交渉については、地権者の土地に野田川地域の子どもたちのための認定こども園を計画していくことについては、同意を得ていますが、価格交渉等は行っていません。町として、今後、整備計画（案）のとおり進めていきたい強い思いを持っています。

（意見）

- ・いつの段階で計画が決定するのか。

（回答）

- ・これまで、保護者、各地区住民説明会でさまざまな意見をいただいています。

今日も意見を伺うことが目的である一方で、3月議会において、新年度予算が審議されていきますが、用地の不動産鑑定料を当初予算に計上したいと考えています。

野田川地域のこども園については、当初計画を白紙にした時点から、2年が経過しており、子ども・子育て会議の意見、保護者アンケート、特に身近に直面されている方の意見に重きをおきながら、この整備計画（案）の説明を進めてきています。

3月議会での承認が得られましたら、令和6年度の早々には案を計画にしていきたいと考えています。

（意見）

・幼児から大学生までの教育の中で、何が一番重要な教育だと考えているのか。

（回答）

・幼児期における教育が一番重要だと考えています。

（意見）

・自分の行きたい道を考えて専門的な教育を受けるという点で、ある程度人間形成ができた人が受ける教育が高校や大学の教育だと思う。

幼児教育については、右も左もわからない子どもたちを教えていくといことは、先生にとっても難しい教育だと思う。

20年程前に、京都市内の保育所と山田保育所にこどもを預けたことがあるが、レベルが全然違った。

町の保育所は、集まって遊んでいる、その時間だけを預かっている印象を受け、京都市内とのギャップ、地域によって幼児教育の差があることを感じた。

幼児期は人格形成の基礎となる重要な時期であり、市、町のどこで幼児教育を受けても、同じレベルでの幼児教育をお願いしたい。

現状、考えられないような事件が起きている。何が原因かは特定はできないが、幼児教育がしっかりできていないことも多少は関係しているのでは思っている。

園を統合して、多人数で教育していただくのは結構だが、教育内容をしっかり吟味してほしい。

（回答）

・人格形成の基礎となる幼児期が非常に大切な時期であることは承知しており、教育・保育を努めていくということは、責任あることと受け止めています。

場所や地域によって、教育・保育の差を感じられたことは、以前のことであっても残念なことであり責任を感じています。

現在、町立こども園、保育所では同じ教育・保育を行っており、こども園化に移行することによって、現在、保育所では参加できない京都府、両丹地域等の教育・保育施設で構成する外部組織等に参加することができます。外部組織との繋がりによって、新しい教育・保育の内容や情報を受けられたり、研修会等への参加によって、職員の保育の質の向上にも繋がるものと考えています。

こども園化の中で、教育・保育の中身、職員自信の質の向上に取り組んでいきたいと考えています。

(意見)

- ・計画候補地における交通事情や水害対策は。

(回答)

- ・交通事情、浸水被害を心配するたくさんの方の意見をいただいています。  
交通や水害についての安心安全を担保できる方策や、何処に建てるのかということよりも、どのように建てていくのかということも含め、専門家の意見をいただきながら協議を進めたいと考えております。

(意見)

- ・保育所がなくなると地域からこどもの声が聞こえなくなるが、区としても、この地域に若い世代の方に移住してもらえよう検討したい。  
山田保育所でも、送迎時間帯には、園児は少ないが車両が並んでいる。統合した際にはどうなるのか。  
車両の出入りに関しては、一方通行等、十分な配慮をお願いしたい。  
教育関係者ではないのでわからないが、子育ての質として、多く子どもたちの中での教育・保育は本当にいいのか。できることならこの地域に子どもたちの声が響き渡ってくれることを願っている。  
石川小学校の入口付近の海拔は、5.7m、山田小学校は9.7m、石川に園舎を整備するのあれば、かなりの盛土をしないとイケない。  
・子ども数が減少していくということだが、令和9年度の園児数見込は。

(回答)

- ・対象となる野田川地域の園児数は200名程度と見込んでいます。

(意見)

- ・山田保育所が雨漏りしていることに不安があるのか。メンテナンスをしてもその状態なのか。

(回答)

- ・園児の安心・安全、衛生環境の面からも、問題があると考えています。  
雨漏り箇所には必要な修繕を実施しています。

(意見)

- ・かえでこども園、つばきこども園については現在、定員が割れているが、今後も減っていくのでは。

(回答)

- ・全体的に徐々に減っていくのではと考えています。

(意見)

- ・180名定員に対して、2クラス体制で対応できるのか。

(回答)

- ・かえでこども園で、194名の園児数を受け入れていた際にも、2クラス体制で対応できていました。

(意見)

- ・現在利用されている方が、早く開園を希望されているのであれば、反対はしない。
- ・こども園のデメリット、心配な点を聞かせてほしい。

(回答)

・先生からの聞きとりの範囲では、大規模園になることへのデメリットとして、1クラス人数が多いと一人一人に丁寧に関わっていないのではないかと感じることもあるといった意見を聞いています。人数が増えることによる心配はありますが、たくさんの目で教育・保育を行うことで、不安はカバーできるものと考えています。

研修等を重ねた先生により、質の高い教育・保育を展開いただいていると認識しています。

(意見)

・山田小学校では、1クラス10人ぐらいと聞いている。こども園が大規模になって、小学校が小規模というのは子どもにとって弊害になるのではと考えるが、小学校の統廃合はいつになるのか。

(回答)

・小学校の統廃合については、令和12年度以降の検討となっています。令和12年度に検討が開始されるため、実際統合する時期は少し先になると考えています。

(意見)

・園舎を早く整備してあげてほしいと思う。

(意見)

・概算事業費を14億円と試算されているが、財政面の不安や物価高騰もあり、身の丈にあった整備、支出を抑えることを考えてほしい。

(回答)

・議会からも指摘を受けており、並行して支出を抑制する方法も議論しており、十分検討していきます。

(意見)

・小学校がなくなった岩屋地域から子育て世代が引っ越しをしていると聞いたが、地域に学校がある、こどもたちが集まる場所があることはメリットだと考えている。岩屋地域については、小学校も保育所もなく、小学生は片道1km以上をかけて通学しており、統合によるデメリットと考えるが町の見解は。

(回答)

・岩屋地域に小学校や保育所がなくなったことにより、人口が減っているのではなく、町全体の傾向として人口が減少しています。小学校、保育所のあるなしに関わらず、魅力的な地域になっていくことを議論する必要があると考えます。

(意見)

・子育て世代がこの地域で子どもを育てていきたいと思うとき、すぐ側に小学校や保育所があるということは大きなメリットだと思う。多くの子どもたちの中での育ち、少人数の中での育ちは、どちらがよいのかはわからない。

(案)といいながらも計画どおりに動いており、今更蒸し返すことはしないが、よりよい計画にしてほしい。

(意見)

・丹後の子どもたちは、都会に出ていくと気おくれする子どもが多い。  
気おくれしない個性のある子どもを育てる教育・保育をしてほしい。

(回答)

・与謝野町の子どもたちには、ふるさと意識や、帰る場所があり、待っていてくれる人がいるといった基本的な部分を持ってほしいと考えています。

これからの園づくりの中で、子どもたちは、わくわくする気持ちや、おもしろかったということが達成感や意欲、自己肯定感に繋がっていくと思っており、経験値をたくさん積んでいくことが、幼児期における教育・保育の大切な部分であると考えています。園庭に洞穴がある、隠れ家がつくれる、いろいろな生き物を飼う等、面白い、楽しいと思える園舎や、教育・保育を進めていく中で、色々な豊かな力が育まれると考えています。

魅力ある園づくりを更に進めていき、気おくれしない、自分に自信をもって人と関わっていく力を、たくさんの人との関わりによって、育んでいきたいと考えます。

(意見)

・事業計画(案)には賛成だが、計画候補地は農地であり、土地が低く浸水被害が心配される。亀山交差点の周辺が大雨時に冠水している。道路が冠水すれば送迎できないのではないか。

(回答)

・3園の中で、立地場所を検討し、石川地域が海拔的に低いこと、ハザードマップ上でも一定の浸水も見込まなければならない地域だということは承知しています。他の2園については、山に隣接していることから、土砂災害の危険性を優先回避する必要があると判断しました。ハザードマップ予測では、浸水の可能性は否めませんが、野田川から距離もあり、浸水の速度予測や対策、災害時における送迎ルートや送迎が困難な場合の避難場所の確保等を検討し、候補地として選定しました。

(意見)

・送迎は、スクールバスを想定しているのか。

(回答)

・現状、考えておりません。

(意見)

- ・国道の交通量も多く、交通面では危険な場所だと思われる。

(回答)

- ・京都府、宮津警察署等との協議をしながら、安全確保策に努めたいと考えます。

浸水問題については、盛り土等の対策や、万が一に備えて、垂直避難ができる建物構造であったり、普段からの園と保護者との連携や有事の際における連絡体制の構築等、災害を回避するあらゆる方策を検討します。



## 三河内住民説明会意見内容等（2/28 実施 参加者 23 名）

（意見）

- ・建設予定地として、野田川体育館周辺での計画が白紙となり石川保育所周辺になったということだが、立地条件として安全面、災害面からも野田川グラウンドは考えられないのか。森林公園が近くにあり、子どもたちも遊びに行けて良いと思う。
- ・のだがわこども園の園長としてどう思うのか。

（回答）

- ・野田川グラウンドについては、候補地を選定していく中で検討を行いました。現在も社会体育施設として使用していること、また震災等有事の際における避難地、仮設住宅の建設地、災害ごみの集積場所等の用地として活用することとしており、災害発生時には、一定広さのある土地を確保する必要があることから、こども園の候補地として選定しなかった経過があります。

野田川グラウンドは、自然にあふれ、森林公園にも近く良い環境だと思えます。

子どもたちの考える力や人と関わる力というのが、これからの子どもたちに求められる力であると考えており、町民グラウンド付近の自然は魅力的ですが、様々な人との出会いを経験する場所も大切にしたいと思っています。

石川保育所周辺は、商業施設や郵便局、事業所があり、色々な人に出会い、色々な仕事を知ることができ、子どもたちの直接的な経験や体験が子どもたちの育みの源になるものと考えています。

（意見）

- ・用地については思うところはないが、園の教育目標が高いと感じた。
- ・年齢に応じた目指すところはあっても、家庭が子どもたちをしっかりと見ていくことが重要だと考える。

（回答）

- ・年齢に合った、子どもの発達に合った教育・保育を進めてきています。丁寧な一人一人の気持ちに寄り添った保育を心掛けるということを基本としています。

（意見）

- ・家族関係が薄れてきている中、家庭の中での子どもの居場所の確保、地域の子どもは地域で育てようという取り組みが必要である。

（回答）

- ・家庭での教育・保育はその子どもたちの安心を作り、愛情を受けて育つことは大変重要なことだと考えています。

家庭環境が変化していく中で、子どもたちの状態については、町としても注視していますが、現状0～18歳の約70家庭100人の子どもたちを警察、児童相談所、園・学校等で組織する要保護児童対策地域協議会で見守りを行っており、家庭内での暴力や課題のある家庭等の数字が少しずつ上がってきています。

子どもたちに対する寄り添いをどのようにしていくのかということは、就学前の教育・保育施設だけでなく、小学校、中学校、民生委員をはじめ、福祉団体等の協力をいただきながら、子どもたちに応じた対応を行っています。

妊娠期から保健師が関わり、切れ目のないきめ細やかな支援に努めていますが、社会的に最小単位である家庭が、安心できる場所でなくなっている子どもたちがいるという現状があります。

園と連携し、児童に気になることがある、お母さんの言われたことが気になるなど、変わったことがあれば、園から様々な情報をいただき、いち早く家庭の状況を確かめることができる仕組みを作っています。

先生方は日々研修を積み、教育・保育の現場で、たくさんの手とたくさんの目で、子どもたちを見守り、成長を助けていただいております、十分な力を持った先生が揃っていると認識しています。

(意見)

・三河内地域の子どもは、のだがわこども園やつばきこども園を利用している子どもが多いが、どこでも利用できるのか。

(回答)

・町立園、民間園を問わず保護者が希望する園を利用いただける環境となっています。

(意見)

・認定こども園の整備計画は長年の課題であり、計画どおり進めばよいと賛成しており、今後も説明をいただきたい。

こども園になると研修も増え、市町村間や京都府とも連携できるとのことだが、保育所は連携できないのはなぜか。

(回答)

・保育所は京都府保育協会との連携はありますが、他市町村との連携がありません。

こども園は、丹後の幼稚園・こども園と合同の研修会や会議があるほか、京都府、近畿、全国と繋がっており、色々な研修会等や保育を見たり知ったりする機会があります。

こども園に移行することで、保育士が同等に同じ研修を受けることができ、職員の資質向上につながるものと考えています。

(意見)

・職員体制が整っていないと研修を受けづらいと思うので、受けやすい環境を整えてもらえたらと思う。

・幼稚園は文科省、こども園は内閣府の管轄となる。保育所とこども園の違いは。

(回答)

・こども園、保育所の教育・保育に関しては、こども園は幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所は保育所保育指針、幼稚園は幼稚園教育要領に基づき教育・保育を進めている。町立のこども園、保育所は同じ教育・保育を実

施しています。

(意見)

- ・ 都会では子どもの声は騒音と言われることもある。計画用地に事業所があるが、移転等を考えているのか。
- ・ 事業を計画するには敷地は四角い土地のほうが使いやすいが、このまま進めるのか。

(回答)

・ 移転は考えておりません。地権者と同じタイミングで事業所の周りの土地を購入したい旨を説明しています。

地権者には現在、価格交渉には至っていませんが、石川保育所周辺にこども園新園舎を計画していきたい旨を説明しており、町の子どもたちのための施設整備に対し理解をいただいています。事業所からは、日照が悪くなる等、生活に不都合にならないことを条件に理解をいただいています。

四角い土地とはなりません、近くに事業所や住民の生活の場があることは、色々な人の存在や仕事を知ることができる等、子どもの育ちにとっては良い環境であると考えています。

町長宛に保護者会連合会から、昨年12月に陳情書が提出されています。「のだがわ地域の新園舎建設の計画を速やかに進めていただきたい。」「現在在園している園児のために施設の修繕や設備などできることはしてほしい。」「この町で子育てをする方にとって、地域格差があることは大変残念なこと。この町に住む子どもたちが同等な保育・教育を受けられるようになることを切に願う。」「合わせて、新園舎の建設が保留になっている件について保護者にきちんと説明してほしい。」と陳情を受けており、町ではこの保護者の声を大切に、一日も早い新園舎整備の実現を目指したいと考えています。